市長コラム
創造を想像する

魅力ある地域づくり

■「住みたい田舎ベストランキング」にランキング

1月4日に発行された㈱宝島社の月刊誌「田舎暮らしの本」（2月号）で、毎年恒例となった「2019年版第7回住みたい田舎ベストランキング」が公表されました。

にかほ市は、人口10万人未満の小さなまち総合部門で全国40位、県内では1位、東北エリアでも3位となりました。

人口の多少を問わない東北エリアにおける部門別ランキングでは、シニア世代が住みたい田舎部門、自然の恵み部門、子育て世代が住みたい田舎部門のそれぞれで、3位、6位、8位となり、総合部門でも堂々の第6位となっています。

同誌が公表した内容について、すべての自治体が参加しているわけではありませんが、これまでの市の移住・定住への取り組みが客観的指標をもって評価されたことを素直に喜びたいと思いますし、職員の日々の頑張りに感謝したいと思います。

宝島社『田舎暮らしの本』2019年2月号
「2019年度版　住みたい田舎ベストランキング」▶

■驚かされる結果

公表された結果をみて、ものすごく驚かされたことがあります。それは東北エリア総合のトップ10の顔ぶれです。

1位から10位までを見てみると、…秋田市、由利本荘市、にかほ市、遊佐町、酒田市、鶴岡市が入っていて、秋田から山形にかけての日本海沿岸の自治体がトップ10を独占していると言っても過言ではない状況にあるのです。

もちろん、秋田市から鶴岡市までの自治体が大小を問わず頑張っていますが、中でも財政規模の小さい遊佐町やにかほ市が大きな市と肩を並べていることは、手前味噌になりますが、一言でよく頑張っていると言えると思います。

東北総合		
6位	秋田県にかほ市	71.28点
シニア世代が住みたい田舎		
3位	秋田県にかほ市	33.18点
自然の恵み		
6位	秋田県にかほ市	27.02点
子育て世代が住みたい田舎		
8位	秋田県にかほ市	49.18点

▲にかほ市がランクインした東北エリアのランキング（抜粋）

■もしかしたら…

ただ、今回の結果を私たちが手放しで喜んでいいのかという疑問を私は抱いています。

今回の結果に、あえて水を差すことを言わせてもらいます。前から懸念していたことです。強烈な表現で言います。それは、いま進められている移住・定住施策が近隣自治体間の「共喰い」になってはいないかということです。

もちろん、私たちは人口減少という国難に果敢に挑んでいかなければなりません。その意味からしても、移住・定住のための取り組みは最重要課題の一つですし、その手綱を緩めるわけにはいきません。実際、最前線で頑張っている担当職員は、首都圏に出向いての移住フェア、県や関係機関と連携しての相談会などに参加し、一人でも多くの人に当市を知ってもらい、移り住んでもらいたいと奮闘しています。

ただ、あわせて近隣地域との「同じパイの奪い合い」になってはいけません。そのためにも、検証をもとに、事業の見直しと改善を丁寧に続けていかなければならないと思っています。

にかほ市長
市川雄次